

國威を世界の大勢に繋ぎ、一瞬

天長節

茲に我等は歌ひつゝ舞ひ上り、年々天長の佳節を迎ふ、梓弓やし、申江畔仰て君を慕ひ、俯して親情は、千代に八千代、富士の雪は、あし田鶴のかける空、うさぎあるは、自からな異らざるを得ず、に御し玉へる、功上帝に格り、垂る、皇猷の大ど餘烈の偉、前上、皇祖の宗の道風をして、二十有餘年後の今日、甫めて宇内、皇化の暨ふ所、遠邇あるなく、器を今上陛下に授け、守成紹緒、宣べ休命に膺らしめ給へり、大日本帝國の鴻基たる、固より經綏の然らしむる所なりと雖、一國威を世界の大勢に繋ぎ、一

顧みて宇内の大勢と、東洋の局面を一瞥すれば、近く者如斯きか、駭々として其の止る所を知らず、寒心に堪へざる者あり、耽々たる露國の虎視は、既に鶴林八道、長白山南の地を去りて、平沙萬里人を見ざる蒙古の野、新疆の邊に轉へざる者ありと雖、雄心鬱勃少焉くも休まず、更らに進んで英佛と、他日鹿を長江の一帯に逐ひ且つ角せんとするの概あり、獨乙は外東の一角に龍蟠して、専ら力を其の治外法權下に於ける、民心の收買に致し、之を八十綱の引よとす均しく、西向蓋因河畔の祖國に導き、宛たチ日曼の聯邦の一ならしむべき地歩を求むるに惟れども足らず、英國の緬甸鐵路は、ヒマヤヤ山麓を繞りて山河襟帶自然の四川に出づ、四方に號令せんとするの日も又指を屈して俟つべく、越南の立脚地を發して、途雲南を經、之を巴山蜀水の間に宛て、蜿蜒らしむべき、佛國の安南鐵路も今や

●日支兩國實業

上の關係

滬上小言

其の設計を大成せり、米國も踴起導進事業を其の引出物として江北の天地に割據し、日夜風雲の睥睨に急なり四圍の狀態にして已に如斯くなるを、八重津之に問ふ天皇の開拓し玉ひし帝國の位置に間もも、豈に敢て安然たるを容るるさんや、先哲は吾人に、守勢を執らんか攻むる者に對して何時も力の倍すべきを稱せり、乃ち大正の聖代に於ける、六千萬赤子の獻替にして、明治の四十有五年間、先帝の爲に患なりし所以の奉公を追ふ事能はざるが如きあらば、人の以て渾球面上萬國に對するなし、人は明治の人に異ならずして、時は明治と其の際會を異ならず、我等平生學ふ所何事ぞ、君子時中の義於是てか愈々新たなり

嗚呼節は未だ菊花を迎へざるも、時は今上陛下天長の佳辰たり、東向太白を捧げて恭しく至尊の萬歳を祝し奉る

● 日支兩國實業
上の關係

支那と日本とは通商貿易上其の關係近年倍密接となり、其の通商貿易の數量を増したるのみならず、之に従事する日本商人、支那商人も亦た日一日其の數を加へ交易する商品の種類を増加し、仕向地も亦た擴張したるは何人も知る所にして支那日本との商業家の間に懇親を結ばんが爲め、既に日本の實業家は先年其の代表者を支那に派し、各地に於て交驛到らざるなき有様なりしは我等の記憶に新らなる所なり

爾來支那全國の商業會議所の代表者も亦た將に日本に赴き、日本の實業家と交驛する事に定め、その出立準備中、不幸にして支那に革命の爭亂生じ、事變定

橫濱正金銀行

電話
營業部 二七四
輸入部 三〇〇七
支配人席 三〇〇三

臺灣銀行

支配人 江崎眞澄
電話 營業部(二一六五)
支配人席(一三三一)

本支店及出張所

臺北、臺中、臺南、基隆、嘉義、打狗、
宜蘭、淡水、新竹、阿緞、花蓮港、澎湖、
島、東京、大阪、神戶、香港、廣東、汕
頭、廈門、福州、九江、新嘉坡
其他各所ニ取引先アリ

諸事精々御便宜相圖可中、御
用ノ御方ハ支配人席へ御電話
被成下度候

まりたる迄その出立を延期し、そのまゝ今日に及び居るも亦た我等の忘れざる所なりとす。
而して今次の事變又々時局を不定ならしめたるの際、所謂流言蜚語は多く傳へられ支那と日本との通商貿易上に少なからざる障害を蒙らしめんとするの状あるを見る、而して其の理由とする所を聞くに此の度の争亂は日本が之を生ぜしめたるなりと云ひ又た日本の商人は此の度の争亂を助成せしめたりと云ひ居る此の事なり、我等は直接間接支那時局の不定の爲め損害を蒙るべき事他の諸外國に比し最も多かるべき我が日本及び日本商人がかくの如き行動あるを信する能はざるのみならず、實際に於て此の如き事實のあらざりしを知るものも、抑も此の如き流言蜚語を傳播せしむるものは必ず支那と日本との通商貿易上の關係を害するに對し之を阻害せんと思ふ第三者の行為に基くものなるべしと思ふの外あるなし。

支那と日本との通商貿易上の關係の過去に於て既に密接なるものある上に、將來に於ても亦た倍此の關係を助長せしむるの要あるは、何人も承認し疑なき事に屬す、而して在來支那の各地に在る、支那及び日本の商人のみならず、日本に在る支那及び日本の商人も之に盡力する所あり次第にして、前記日本の實業團が支那の各地を巡遊したるに對し、支那よりも亦た同様の計畫を立てたるの關係、通商上の關係は即ち交通機關との關係によりて助長せらる、事少ならず支那と日本との間に航海する船舶の數に於ても過去十數年間に其の數を加へたるは何人も知る所にして、今より十數年前に於ては日本の船舶にして上海に來るもの僅かに一週間に一回のみ、しかも其の船腹の如きも敢て多からず、又た揚子江上に

航行せる我が船舶も大井川丸、天龍丸、等の如き僅かに數百噸の汽船二隻ありしに止まり、沿岸航路に於ても云ふに至るものあらざり次第なるに、今日に至る支那に於ける日本船舶の航行して、日本及支那の貿易に資するところの多大なるは非常の進歩にして、即ちこれが爲めに日本と支那との貿易上の關係を密接ならしめしは云ふまでもなき事柄に屬す。
殊に揚子江及びその支流に於て交通の便を開きたる我が日清汽船會社の航路の如き、近年長足の進歩を見、その支那に於ける商業上の便利に貢獻する所多き次第なるは我等の云ふ所を俟たざる也、然るに昨今耳にする所によれば日清汽船會社の汽船に對し、支那人の一部人士は各種の流言を放ち貨物の運輸に際し戰事保險を付する等の事ありと、これらも全く何等かの爲めとするものなす所なるは我等の疑を客れざる所なりとて、此の如きは事實の實際に於て日本と支那との通商貿易を阻害するに止まり、支那にとりても何等の益する所あらざるに此の如きを敢てするが如きは誠に理由なくして日本と支那の通商貿易上の關係を徒らに阻害するに外ならずとす、
其の他上海に於ける支那新聞紙の記述する所を見るに日本の商人中支那貿易に對し、うの功績少なからざる有数の會社等に加ふるにあらゆる嫌疑を以てし、政論以外に在りて商賈に従事し、日本と支那の商賈の上には有益なる仕事をなしつゝあるものに惡名を蒙らしめつゝあるを見る、此の如きも亦た、日本と支那の商業上の關係に害ありて益なく、その害を受けるものは獨り日本商人にのみ止まらずして支那の商人も亦た同様の害を蒙るの結果を生ずる次第なり、
我等は支那と日本の通商貿易上の關係は最近十數年間に非常の進歩發達をなし

たるの事實に見て、之によりて益せるは單に日本人にのみ止まらず、支那人の之れによりて益したる事の尋常にあらず、を知るものも、而して今後に於ても此の關係をして更に進んで多く密接ならしめ、互に相利する事の多からんとする様に心掛け、日本と支那の通商貿易を助長するに盡力するの必要なる事を説くものも、上海の支那總商會の諸君も亦た想を茲に致し、日本と支那の貿易上の關係を阻害する原因を除去する上に於て十分の盡力せんことは我等の深く希望する所に於て、我が在上海日本人實業協會の諸君も亦た、支那の上海總商會の人々と協同して此の點に於て事情の疏通を計り、互に密接ならしむる上に貢獻する所あらんことを希望するものなり、
支那に如何なる政事上の争亂ありともこれが爲め商人が互に相猜疑の心を有し此の在來圓滿なりし關係を阻害するが如きは、兩國ともに大なる損にして、兩者共に益する事なきを思ふ、我等は昨今の支那に於ける各種の流言蜚語を耳にして茲に敢て日本人及び支那人の實業當局者に對し其の所感と述べ、兩者の互に協力一致して、倍兩者の關係を密接ならしむるの方法を講ず可きを勸告するものなり

支那と日本との通商貿易上の關係の過去に於て既に密接なるものある上に、將來に於ても亦た倍此の關係を助長せしむるの要あるは、何人も承認し疑なき事に屬す、而して在來支那の各地に在る、支那及び日本の商人のみならず、日本に在る支那及び日本の商人も之に盡力する所あり次第にして、前記日本の實業團が支那の各地を巡遊したるに對し、支那よりも亦た同様の計畫を立てたるの關係、通商上の關係は即ち交通機關との關係によりて助長せらる、事少ならず支那と日本との間に航海する船舶の數に於ても過去十數年間に其の數を加へたるは何人も知る所にして、今より十數年前に於ては日本の船舶にして上海に來るもの僅かに一週間に一回のみ、しかも其の船腹の如きも敢て多からず、又た揚子江上に

支那と日本との通商貿易上の關係の過去に於て既に密接なるものある上に、將來に於ても亦た倍此の關係を助長せしむるの要あるは、何人も承認し疑なき事に屬す、而して在來支那の各地に在る、支那及び日本の商人のみならず、日本に在る支那及び日本の商人も之に盡力する所あり次第にして、前記日本の實業團が支那の各地を巡遊したるに對し、支那よりも亦た同様の計畫を立てたるの關係、通商上の關係は即ち交通機關との關係によりて助長せらる、事少ならず支那と日本との間に航海する船舶の數に於ても過去十數年間に其の數を加へたるは何人も知る所にして、今より十數年前に於ては日本の船舶にして上海に來るもの僅かに一週間に一回のみ、しかも其の船腹の如きも敢て多からず、又た揚子江上に

主要記事

第二期上海貿易(下)

本年第二期上海貿易(下)
重要輸出品 重要輸出品中の茶及生糸に就ての統計を見るに上海より日本及び朝鮮へ輸出せられし紅茶は日本に二十四担、朝鮮に八担、綠茶は日本に十担、朝鮮に一担ありしのみ、其の他各國への輸出高等も示しあるが上海より紅茶を最も多く輸出せしめたるは露國の八千五百

二十五担英國の七千五百一担獨逸の五千七十九担北米合衆國の三千八十六担澳洲國の二千九百九十四担加茶の五千五百八十担等にして本期間紅茶の外國への輸出總額は二萬八千七百七十七担支那の各地へは一千二百二十七担なり、又た綠茶を最も多く上海より輸出せるは露國の二千八百四十担獨逸の一千九百九担北米合衆國の一千三百五担、獨逸の七百五十七担等にして綠茶の外國への輸出總額は八千九百四十四担支那各地へは四千三百九十七担あり、磚茶の輸出されしは露國のみにしてその紅茶の分九萬七千三百九十七担、綠茶の分二萬七千三百卅二担あり、又た生糸類について云ふ本期間日本へ輸出せる白生糸一担九〇、野蠶絲二千担同機械絲百〇三担兩八百十四担、四三、肩絲三百八十三担八〇、肩兩六百十二担九三あり、
生絲類を此期間中最も多く上海より輸出せるは露國なり生絲及黃色生絲各種の輸出地及び其の數量を示せば

香港 五、五
海峽殖民地 一、八
英領印度 一、七
土耳其波斯其他 二、六
英國 二、八
獨逸 五、〇
佛蘭西 五、四
瑞西 五、四
伊太利 五、六
露國 五、七
日本 一、九
北米合衆國 三、五
合計 三、五
又た野蠶絲は 野蠶絲 同機械絲
土耳其其他 野蠶絲 同機械絲
英國 野蠶絲 同機械絲
獨逸 野蠶絲 同機械絲

日清汽船株式會社

上海出帆(漢口行)
每週月夜半浦東棧橋ヨリ發
每週土夜半野船棧橋ヨリ發
電話 輸出宿直 四七五
輸入宿直 一三三
船客 三二五
上海支店
電話 浦東棧橋 四七四
內監 督 一八七
漢口宜昌線 一週一回
漢口常德線 一週一回
漢口宜昌線 一週一回
九江南昌線 一週一回

○本店 東京市銀座通二丁目 七番地
○大倉益昌碼頭(浦東)事務所 (電話三〇七九)
上海九江路第拾七號
株式會社 大倉組 支店上海
電話 輸出 石炭 八八六
輸入 會計 二八八
支店長室 三〇一
支店及出張所 大阪、橫濱、橫須賀、神戶、吳、門司、佐世保、舞鶴、沼津、京城、臺北、臺中、打狗、天津、漢口、上海、大連、北京、倫敦、紐育、漢堡、濠州、
○支店及出張所 大阪、橫濱、橫須賀、神戶、吳、門司、佐世保、舞鶴、沼津、京城、臺北、臺中、打狗、天津、漢口、上海、大連、北京、倫敦、紐育、漢堡、濠州、

佛國	一、四八元	六五元
伊太利	二五〇元	六二七元
露國	一〇〇	—
日本	一〇〇〇	一〇〇〇
北米合衆國	四、四九元	—
合計	一、六六元	五、四二四元
佛國の輸出は左の如し		
佛國	九三六元	—
伊太利	三三〇元	—
日本	八四四元	—
合計	二、一〇九元	—
屑絲の輸出については		
土耳其其他	〇四二	—
英國	四、八六元	—
白耳義	三三〇元	—
佛國	五、七一一元	—
瑞西	〇、九〇元	—
伊太利	九八元	—
澳匈國	四八八元	—
日本	三三六元	—
北米合衆國	一、五八六元	—
合計	二、六八五元	—
なほ屑絲の輸出は左の如し		
英國	二五五元	—
佛國	四二二	—
澳匈國	九八元	—
日本	六三九元	—
合計	一、五〇三元	—
右の他の輸出品について記するに欲するも紙幅に限りあるのみなす、各國別に輸出先を明示されざる故茲には重要輸出品中の茶及び生絲類についての記述し		

▲貴金屬及び貨幣の輸出入

貴金屬及び貨幣の上海に於ける輸出入を見れば上海の金融に干渉する研究の資料たるを以て、左に其の要領を示す、即ち本年四月乃至六月の分なり第一期即ち本年一月乃至三月の分は前述の如く第十九號	大連	六、〇〇〇	海關
芝罘	二、一五〇	海關	
合計	八、一五〇	海關	
第二銀			
條銀及馬蹄銀	銀貨	合計	
大連	三、〇〇〇	海關	
芝罘	九、二〇〇	海關	
合計	一二、二〇〇	海關	
條銀及馬蹄銀			
大連	二、一五〇	海關	
芝罘	九、二〇〇	海關	
合計	一一、三五〇	海關	

天津	一、七六元	二、七六元	二、〇〇元
芝罘	二、二五元	三、五〇元	二、八五元
膠州灣	二、二五元	六、八八元	三、三〇元
重慶	二、二九元	三、九八元	—
宜昌	一、六二〇元	七、二〇元	二、〇〇元
長沙	四、八六元	三、五〇元	二、〇〇元
漢口	七、四〇元	二、六六元	二、〇〇元
九江	三、二八元	四、六六元	七、四〇元
蕪湖	二、五〇元	四、五七元	三、五〇元
鎮江	六、〇〇元	二、〇〇元	二、〇〇元
寧波	三、七五元	二、九八元	二、〇〇元
溫州	二、九八元	二、九八元	二、〇〇元
福州	二、〇〇元	二、〇〇元	二、〇〇元
廈門	二、〇〇元	二、〇〇元	二、〇〇元
汕頭	三、六八元	三、六八元	三、六八元
合計	三、四二四元	八、三三七元	—
第二銅			
銅貨	—	—	—
宜昌	三、五五元	—	—
漢口	一、二七元	—	—
合計	三、五五元	—	—
支那各地より上海に輸入せる金銀銅は 總計八百三十五萬三千三百十四海關兩なり、 而して各外國及び支那各地よりの分を合計したるもの即ち一千四百一十一萬七百七十九海關兩は本年四月乃至六月中各外國及び支那各地より貴金屬及び貨幣の輸入總高となす			
△輸出			
甲 外國への輸出			
第一金			
條金及砂金	貨幣	合計	
歐洲	一、四〇元	海關兩	海關兩
美洲	一、四〇元	海關兩	海關兩
合計	二、八〇元	海關兩	海關兩
第二銀			
條銀及馬蹄銀	銀貨	合計	
歐洲	七、四〇元	海關兩	海關兩
合計	二、八〇元	海關兩	海關兩
條銀及馬蹄銀			
歐洲	七、四〇元	海關兩	海關兩
合計	二、八〇元	海關兩	海關兩

柴炭及東京	九、七〇〇	九、七〇〇
香港及澳門	七、四〇〇	一、四〇〇
浦口	一、五〇〇	—
合計	一、三三三	一、六二九
第二銅		—
支那各地への輸出		—
第一金		—
條金		—
芝罘	一、〇〇〇	海關
福州	六、〇〇〇	海關
合計	七、〇〇〇	海關
第二銀		—
條銀及馬蹄銀		—
大連	三、七六元	海關
天津	二、四〇元	海關
牛莊	一、〇〇〇	海關
長沙	一、〇〇〇	海關
漢口	一、〇〇〇	海關
九江	一、〇〇〇	海關
蕪湖	一、〇〇〇	海關
福州	一、〇〇〇	海關
澳門	一、〇〇〇	海關
汕頭	一、〇〇〇	海關
廣東	一、〇〇〇	海關
合計	一、四二二	海關
右の外記述すべき事項あるべきも、今は右に上海貿易の本年第二期の狀態を示すに止めたり、なほ委曲は海關の報告について親しく研究せられよ(完)		—

時事雜錄

熊總理の就任と其政見

熊希齡の到燕 新任國務總理熊希齡は八月二十二日北京に入り、同月廿

諸公債株式定期現物買賣取扱

栗生洋行海上支店

支配人 川岸 藤太夫
經理 朱 葆 三

●煤 炭

●製 紙

●電 銅

●棉 花

●布 紗

●湖北水泥

五五路川四海上

店支海上司公菱三

(四六九二 ● 二九一話電)

本店 東京日本橋區兜町六番地

栗生 武右衛門

六日國務總理の任に就けり、熊は未だ其の内閣の編制を終らず、目下進歩黨員と協議中にして一兩日以内に其の閣員も決定するならんとの事なり、

▲熊希齡の政策 彼が今日此の紛糾せる支那の現状に見て、如何の政策を以て之に臨まんとするか、これ何人も知らんと欲する所のものなり、彼は曰く、予は常に國家に忠誠ならんと欲す、故に常に官に就き其の職責を盡すを知るのみ、假令熱河に在りとも此の外考なし、

今日に際して支那に於ける最も重要な問題は財政の他にあらざる、財政問題さへ定まらば他は易々たるのみ、之れを思ふが故に、財政總長の兼任となり、新内閣は數日以内に組織すべし、今日定まれるは財政總長のみ他は未定なり、予は中央政府の鞏固ならんことを盡力すべし、而てこのことをなすには議會と十分に協議すべし、今これを議會の好時機なり、

蓋し南方の爭亂も漸く鎮壓し盡されんとし居れば也、支那全國を五六の大軍區に分ち都督を廢し、軍事以外の各省の政事は之を民政長に任せ、在來の各省區域は其儘とすべし、各縣と中央政府の直轄とするの議は之を止めとなすべし、予は各省の秩序さへ回復すれば中央政府の費用を各省が負担し得るものと思ふ、各省の政事は近き將來に於て之をなすべし、

爭亂者の主動者は殆んど逃走し、各省は中央に忠實なるのみ存し居れり、又た大總統選舉については憲法制定後になす可とするものにして憲法の一部を定め、大總統の選舉はなすべからず、尙ほ頃日來風説され居る白耳義借款は事實にあらず、今は五國借款團との契約に據るも明年二月十五日前には如何なる他の借款をもたすべからざるに於ては此の如き借款の出來る理由なきにあらずと

▲熊希齡の國內債 熊希齡は曾て上海に來り、支那の市況不振の状態を目撃し昨年十一月大總統、國務院、各省都督等に對し金融策の意見を發表せしこと這は讀者も知る所ならんか今熊希齡國務總理兼財政總長となりし此際なれば改めて之を左に掲載し參考に供せん

倫敦借款は成立したるも、金額尙ほ不足なるに六國銀行團との借款行行爲を來たせり、爲めに金融逼迫甚だし、紙幣の價額は暴落せり、湖北、廣東の如き殊に甚だし、余猶き財政部總長の任に在るや、金融政策を畫し、國立銀行設立案を立てし、借款挫折の爲め、此の案も亦挫折せり、而して國立銀行をして惡紙幣を回收せしめざれば支那は之れが爲め滅亡せん、故に內國債によりて余の所信を實行せん、

余の案は公債の利率を五分又は六分とし、還債期四十個年、發行價額九十五元、十年据置とし、其の元利金返済の担保は地租を用ひ之に充つべし然れども支那銀行は信用尙ほ不十分なれば、公債の取扱は、一切上海其他の外國銀行に委託す、公債發行高は二億元とし、十年の利息千二百萬元、年賦償還額八百萬元都合千萬元の支拂を保障する爲め、各省より毎年千萬元の地租を外國銀行に預金し、公債の信用を固くらしむるに最近一個年の地租收入高は七千六百五十四萬元なり、此の千二萬元を公債の担保とするは難事なり、斯くて二億元中一億元を中央銀行に、一億元を各省銀行の資本に充て、財政總長の革新を期すべし余曾て江蘇浙江の二省の爲め地方公債を募集し省銀行設立の計畫を立てし際、某國銀行は二百萬元の申込をなせり、況んや地租を担保とし、外國銀行を代理店となり發行するに於ては一層成功し易きなり

云々

右意見發表は昨年末のことなるが責任ある民國國務總理兼財政總長たる今日の熊は果して之を實行し得るや否や我等は之を後に徴せんとす然れども其意見書中地租を抵當とするの一事は一般人民の視て以て事体大なりとする所なり、現に當地漢字新聞申報は八月廿五日の時評を以て地租抵當の内外債募集は支那最後の存亡策にして一步を誤れば鹽の二難を演せるべからずとなし預め熊内閣に一大決心を促がしたる程なり今之を左に譯載すべし

▲熊内閣 熊内閣は臨時政府の末運内亂の初めて平くるの時に當り組織されたれば支那を福するか支那を禍するか、責任甚だ大なり、熊内閣の最も難しとする所のものは財政なり元來支那の財政は困窮し大借款以來糾葛殊に多く今回の内亂によりて更に苦し難なり熊は能く之を知るを以て彼は總理を兼ねて財政總長に當たらんとせしなり、財政に着手するに當り其方法として熊は地租を以て抵當とし、内外公債を發行せんとするが然りと雖も、這是事体大なり熊内閣苟く決心あるれば生死を度外にして半途に退くことなれば何となれば此れ支那最後の存亡策にして苟も其端を發して之を一度市僧の徒の手に歸せば是又鹽稅の續となればなり

吾人は嘗て之を云へり支那の革新を求めんと欲せば非常策を用ひざるべからず然れども非常の策にして半途中止せば其策の支那に害あるや、非常なり故に、非常の策を抱く人は必ず先づ此非常の策に殉するのみにして始めて其議論を事實に現はすを得べし縱し不幸にして仍ほ失敗に遭ふも天下後世亦能く其心を諒せん熊内閣夫れ之を思はざらんや

●南京の運命如何

張勳の兵力は朝陽門外に六千太平門外に三千あり十四日以來攻勢に努めしと南門の中間夾角に位する富貴山砲台猛威を振ひ容易に近く可からず砲城に兵を進め奪回常なく十九日北軍の占領に歸したる以來南軍時に取還さんと迄追ふ事ありと雖も北軍は堅く守りて退かず砲を引揚げて富貴山を殆ど頭上より打下ろし爲に富貴山は守を失へり之れより步兵進撃の道漸、開け南軍は堅く門を閉ざし城壁に倚て北軍の近づき来るを待つ而已、二十一日夜より廿二日朝にかけて張勳の兵大舉朝陽太平兩門を攻めたるも悉く之を撃退し、二十三日幹部の會議を開き柏文蔚は南京都督となり何海鳴王憲章は討袁軍總司令軍務部長に擧げられ別海軍部を創設し南京在來の軍艦利通金甌外二隻の小砲艦を併せて蔡某の所轄に歸し内江起らざる限り陣容堂々たるの觀あるに至り

▲海軍の參加 南洋巡閱使劉冠雄の率ゆる巡洋艦隊は十九日より江陰砲台に妨げられて潮江するを得ざりしが廿二日頃宜しく妥協を遂げ海圻、海容、應麟、永翔、楚有、南琛、水雷艇列字、宿字廿三日朝鎮江に到着し劉巡閱使を搭せて更に南京に向ひ南京の下流十五哩の地點に停泊し廿四日更に進んで浦口軍の渡河點に至り掩護の任に就き海圻楚有の二隻は二十四日夜陰に乘じて獅子山砲台を通過し南京の上流數哩の地點に止まれり、北軍は浦口の陣地より砲彈を送りて獅子山を打ち海軍も二十四日以來緩慢なる砲撃を試みたり、此時より獅子山砲台強火欠乏の徴あり

▲鐵道の利用 滬寧鐵道は七月二十二日以來北軍の利用を拒絶せんが爲めに常州以北の運轉を中止し來りしが張勳の

東京海上保險會社
明治火災保險會社
日本火災保險會社
共同火災保險會社
東京火災保險會社

代理店 三井洋行

文路第壹號 山口 商店

資本金 三百萬圓

上海日本火災保險會社
上海支店
號九第A路口漢界租英海上
(番六五三一話電)

諸積立金 貳百參拾萬圓

大石橋營口間

備天津

同二五

同二五

同二五

同二五

同二五

同二五

同二五

同二五

同二五

同二五

同二五

同二五

同二五

同二五

同二五

同二五

同二五

同二五

兵南京攻撃に着手して、数日十九日、鐵道の利用を諸し旅客車を鎮江迄運轉せるに張勳の兵運轉士を虐待し亂暴に及ぼるるなく會社は事の煩雜に堪へず二十日再び常州以北を中止せしめたれば張勳大に驚き私かに上海に來て談判し二十三日より南京攻圍軍の兵站總として鐵道を利用して得る事となり、同日海軍護衛の下に鎮江に到着せる公平安平船順新護衛の運送船より上陸せる三千五百の北軍増援隊(新民府より来る)は悉く鐵道に依て前線に増派されたり張勳は司令部を一等客車内に置き太平門を去る七哩堯化門停車場に在りて攻撃軍を指揮せり

▲南軍振ふ 南軍第一師は第三聯隊を中隊とし第八師は第九聯隊を柱とし何れも湖南湖北人多く最も強硬なる態度を待し總司令何海鳴はよく廿九聯隊の人心を得たり西洋人某行いて平和の解決を勧誘せるに兵士等之に應ずるの色なく張勳若し南京を攻めれば必ず虐殺を逞ふし城中を劫掠する事思ふが儘なるべし我等已に之を取て起つて死に降るべし斬るべし軍中戰ふに如かず此項南軍の總勢約七千名思ひに戰場に向ひて城内繁華の地は兵士の徘徊するもの稀れに城民龍城に馴れ此分ならば寧ろ南軍に城を守らしめ張兵の狼藉を避くるに如かずとの意見次第に勢力を占め商務總會の如きは數回の軍資調達に應じたり廿三日より兵器製造所は小銃彈の製造を初め造幣廠は銅錢の鑄造を開始せり、然るに突如として

▲柏文蔚逃る 南軍幹部の組織成り二日既に内訌あり柏文蔚は手兵三百五十名第八師團中の少數者を引きて南京を去れり二十六日某國汽船に乘りて上海に到着し海外に奔らんごしつあり、これより先き二十二日何海鳴は天保城の奪還を企て南軍の一隊太平門より突出して

よく戦ひたるも險要に據れる北軍の擊退する處となり殆ど全滅に歸せり二十二日太平門外より放てる一彈城内の民家に炸裂して火災を起し神策門外の陣地よりは北極閣を砲撃して寺院其他を破壊し廿四日夜太平門方面に激烈なる戰闘起り北軍の野砲猛威を逞ふせり此時柏文蔚南京を去り南軍次第に苦境に陥る二十五日南軍は紫金山上の北軍千余名に對し砲火を送りて止まず

▲外人の奔走 南京在住の醫師米人マクリン、宣教師ブルの兩人は人民塗炭の苦を救ふとて廿五日張勳の幕營地堯化門に到り城兵の頑強に抵抗するは張勳の兵を恐るるに安んずる所以を陳述したるに張勳は備へたる安民の布告文を出し之を南京商務總會に致し巨事を要求し且つ叛徒に與せるものも雖も巨魁の外は罰せざる事を言明せり廿六日張勳は豫備砲撃を以て太平門を破壊し兵を同門に進めたるに忽ち門樓より狙撃せられ死者二十余人を遺棄して退却せり然るに張勳の本營に於ては明日外人の幹旋必ず功あらんと信ぜし北京其他に打電したれば南京占領の祝意を表して俄かに國旗を掲ぐるなどの滑稽を演ぜり

▲赤十字社の活動 上海赤十字社は英官船大連號を備ひて南京に派し北軍の避難細民と二百余の負傷兵を收容し二十八日上海に歸せり廿九日再び戰地に向へり鎮江赤十字病院に收容せる北軍の負傷兵は廿六日現在四百四十名にして外に五百余名は上海に送り尙少數の揚州兵は揚州に送られたり云ふ

に於いては軍艦の砲台を砲撃するを見る而已、二十八日午前七時頃より朝陽門太平門神策門方面に亘り激烈なる小銃戰行はれ幕府山及浦口の砲兵は下關の市街を砲撃せり砲三門を有する北軍の歩兵浦口バーンに砲開して下關の市街を打ち火災せる獅子山砲台は彈丸欠乏して殆ど應砲せず、南京の上下に停泊せる軍艦は共に南京城に近づき城内を砲撃せり二十七日張勳は人に語りて三面夾撃の策ありと稱し馮軍は江を渡りて下關に迫り張勳の兵中隊となりて太平朝陽門を攻め左翼雷震春の兵を南門に出だして一舉に南京を屠らんと揚言せり雖も廿八日午後九時迄は南京未だ陥らず(廿九日朝記)

▲南昌の其後 段芝貴は福康公司の小汽船福濟號に乘りて二十九日九江より南昌に入り直ちに安民の布告を發せり省議會國民黨支部は亂黨の巢窟なりと解散を命ぜられ國民黨の機關長鐘麟章の二新聞は兵を派して封禁せられたり李烈鈞は一説に依れば去安へ途中漢口市より烈船に乗り饒州府に向へ浙江に出でんとせりと云ふ、他の一説に依れば萍鄉より湖南に入れりと云ふ歐陽武は尙吉安に在りて林虎も饒州府に走れりと云ふ

▲安徽殆ど平定 八月廿五日安徽來信に依れば倪嗣冲の先鋒隊(隊長馬聯甲)二十五日安徽省城に到着し倪の本隊は尙は桐城縣に在り云ふ先鋒隊の後を追ひ親率歩兵三營砲三門を率ひて蕪湖に向け安徽を發したる軍艦建威外二隻又た軍に従ひて江を下り行く(沿岸の賊兵を追ひ大通鎮を収め廿五日蕪湖の上流三十五哩荻港に戰て南軍を敗り南軍は蕪湖方面に退却せり蕪湖の南軍は遂に支ふべからざるを知り廿六日夜

▲四川省の風雲 東南諸省に於ける討袁軍の勢漸く振はす各省風を望んで北京政府に歸順せんとする時に當り四川省に在りては突如討袁軍の旗幟を翻へし北京政府に反抗の意を示したり、時は八月六日にして實に重慶駐劄の第三師師長熊克武(舊第五師)討袁軍總司令官たり、爾來四川に於ける討袁軍は勢威日に張り今や合州、順慶、保寧(嘉陵江流域の要衝地)忠州、萬縣、夔州、巫山(重慶下流長江流域の都市にして湖北より四川に入る要路)榮昌、內江、隆昌、富順、自流井(瀘江流域の要地にして重慶より成都に入る通過地點なり)及瀘州下流長江沿岸の合江等の各府州縣は皆討袁軍に加盟し所謂川東の各地及川南の一部は殆ど其の勢圍内に歸したるの觀あり四川省は一昨年七月鐵路國有問題の反對より騷擾を起し先般革命の備を爲せし地に於て爾來黨爭盛んにして紛擾絶つる所なり、故に今次の討袁軍の勃發の如き又此の黨爭の結果に外ならず

▲最近黨爭の實情 現都督胡景翼は日本士官學校の出身にして夙に國民黨の前身たる舊同盟會に入り歸國後雲南、廣西の軍隊に歴任し革命當時は四川全軍總司令として兼ねて重慶鎮撫府總長たり然るに昨年鎮撫府の撤せられたる北京に入りて袁氏の懷柔する所となり熱烈なる革命の志士は此より反つて官僚の走狗と爲れり、去年七月都督尹昌衡(同じく日本士官學校出身にして同盟會員)が西藏征討軍總司令として親ら出征せるや後を承けて代理都督となり尹等によりて扶植せられし國民黨勢力を覆反せんと謀れり

此の際の御申込は便利なり此の組織株式會社の如く營利目的でなく保險契約者は即ち社員にして會社の主權者なり

△我が社の利益配當 目下毎年四分の配當を爲し居れり、生存中利益配當を受け而も萬一の場合は保險金を受取る事勿論なり

△我が社の扶濟保險 我社の利益配當は毎年保險料より差引し、故に一年一負擔は輕減すして一時扶濟に堪へ難き時は扶濟保險として一時扶濟を中止する事を得

△我が社の仕拂 我が社の基礎は最も鞏固にして仕拂は最も敏捷也、創業以來未だ會て保險金仕拂は最に迅速なり

生命保險界の明星

約高五千萬百圓
積立金七百八拾萬圓
當配員當備金九拾八萬圓
(在現本月二十年元正大滿末年九業創)

千代田生命保險相互會社

上海代理店

大倉洋行

(六八二) (六〇八)話電

獨托醫學士 秋田康世

本社特派員參事 齊藤德次

是に於てか、國民黨員の猛烈なる反對運動を惹起し、四川政界は黨爭の爲め、寧日なきの行様なりき、今春以來中央に於ける國民黨の勢力漸く振はざるや袁氏は愈其の壓迫の歩を進め、六月尹昌衡は出征のまゝ、川邊經界使に貶せられ、胡景翼都督と爲り、茲に尹の憤怒となりて彼は兵を率ゐて歸城し胡景翼と對峙し一時形勢急なりしも、北京政府は川邊都督なる閑職を設けて尹を之に居らしめ、以てその反感を柔らげ、(二十三號時難錄四川政界の紛擾参照)尹も亦此の間多額の金貨を得て之を肯じ、今は赴任の途雅州に滞留し形勢を觀望し居り、

▲討袁軍勃發の次第 尹、胡兩者の間は斯くの如くして表面融治せし、雖も國民黨一派は反て之に嫌焉たり、然るに機を窺ひ胡等の驅逐を策し居たり、尤も七月中旬江西の一角に討袁の聲起り、東南各省之中響應する者相繼ぎ一時頗る優勢の觀あるや、四川の不平分子は時來れり、爲し、一面東南諸省の形勢を精査し、一面軍器軍備を備へ、遂に八月六日に至り重慶駐劄の第三師長熊克武を擁して討袁軍の組織宣言を行ひ其總司令を爲し成都に向つて殺到し、あるなり、

總司令熊克武は日本東斌學堂の出身にして夙に同盟會に入り常に黃興と行動を共にし死生の間を馳突して革命亂に及ぶる者、去年春間上海に在りて主に四川人を以て蜀軍なる者を組織し次で四川に入りて歸郷し重慶駐劄の舊第五師々長(今は第三師)として今日に當り、彼れが各地の討袁軍不振の時に當り重慶の一角に據りて討袁を呼號し胡景翼と爭はんとする、偶然に非ざるなり、

▲政府の對川策と將來の形勢 四川討袁軍勃發の報一度傳はるや北京政府は令を發して曰く(八月十一日)四川省の報告に據るに第三師々長熊克武は亂黨に附和し背叛を圖謀し公安を擾かす殊に痛恨に堪たり、熊克武は即ち軍官軍職を褫奪し四川都督胡景翼をして責任を以て嚴禁懲辦せしむ、湖北都督黎元洪、陝西都督張鳳翔、雲南都督蔡謨、貴州都督唐繼堯等を以て勁旅を酌發して會合討賊せしむ云々、北京政府は四省の軍隊を動かして討伐せんとするに在り、而かも其後討袁軍の勢焰各地に擴するや遂に二十六日貴州都督唐繼堯を滇南、雲南貴州四川軍總司令に任じ亂事平定に向はしめたり、四川は遠く西陲に僻在し俄かに討伐の功を擧ぐる事困難なるべきも、それだけ大局に及ばず影響も迅速重大なるべし然れども今や省内に於ける討袁軍の氣概が頻りに亂る北京政府の討伐方策に慎重なる故なきに非ず、而して現下四川の形勢に最も重大の影響を與ふべきものは雅州に形勢を觀つ、ある尹昌衡の態度に在り、す、知らず尹は如何の態度に出づべきや、

四川省の報告に據るに第三師々長熊克武は亂黨に附和し背叛を圖謀し公安を擾かす殊に痛恨に堪たり、熊克武は即ち軍官軍職を褫奪し四川都督胡景翼をして責任を以て嚴禁懲辦せしむ、湖北都督黎元洪、陝西都督張鳳翔、雲南都督蔡謨、貴州都督唐繼堯等を以て勁旅を酌發して會合討賊せしむ云々、北京政府は四省の軍隊を動かして討伐せんとするに在り、而かも其後討袁軍の勢焰各地に擴するや遂に二十六日貴州都督唐繼堯を滇南、雲南貴州四川軍總司令に任じ亂事平定に向はしめたり、四川は遠く西陲に僻在し俄かに討伐の功を擧ぐる事困難なるべきも、それだけ大局に及ばず影響も迅速重大なるべし然れども今や省内に於ける討袁軍の氣概が頻りに亂る北京政府の討伐方策に慎重なる故なきに非ず、而して現下四川の形勢に最も重大の影響を與ふべきものは雅州に形勢を觀つ、ある尹昌衡の態度に在り、す、知らず尹は如何の態度に出づべきや、

文苑

讀左二首 伯明識子弟 亂夏有寒泥 行婦且施賂 意使內外服 孝氏乃自公卿 下之迄士族 無耻賊成節 見利就逐逐 樂世遂放蕩 禍水漸流陸 止此黃河濁 天地將反復 時能持阿膠 果令友狀輕 亡國罪猶小 名教罪大辱 人心蓋甚危 欲喪禮堪憐 誰爲丘嫂哭 未知袁與洪 武羅伯因重 老夫有所充 幸哉無憂慮 空望少康復 傷哉無憂慮 不使孫文字 盜賊與死囚 囚人誠不祥 吾疑古史書 塗炭有所避 曰堯或曰舜 亦如幽厲者 百世呼惡讎

漢字新聞論調

▲譚延闓十六日の通電を讀みて (神州日報) 内亂外患は拮据して吾人の流涕痛哭すべきもの三あり即ち政府に賞罰なきこと、輿論に是非なきこと、士大夫に廉恥なきこと、是より夫れ南軍難を發せば相繼ぎて獨立し北軍戰勝せば相繼ぎて取消す其居心已に問ふべからず即ち甲省人の迫害を受くこと云へば政府も亦從つて之を權宜し情尚ほ恕すべし云云乙省係りに權宜に出づ云へば政府も亦之を解して事已を得ざるなり云云是に於て官吏は能く切抜けたりとて好を差ふ此れ流涕痛哭すべきもの一なり、政黨黨派此れ以來人に賢思なく事に可否なく只だ議員に罪を得ざることを求め眞面目のものを用ひられず巧點者は因縁を得て利となし同一人に対し甲黨は盜と云ふ乙黨は君子と云ふ同一事に對し甲黨は民を殃するものとし乙黨は國を福するものとす是れは甲黨を脱し乙黨に入れば罵言は變じて諂辭となり朝に黨に入り夕に黨を脱し同志者は變じて仇敵となる此れ流涕痛哭すべきもの二なり、今回の謀反諸士は其

各地通信

●芬蘭より 寸閑生 昨日フィンランド、イムトラの瀑布に來遊、豫想以上の壯觀、但しカスケードにして以來人に賢思なく事に可否なく只だ議員に罪を得ざることを求め眞面目のものを用ひられず巧點者は因縁を得て利となし同一人に対し甲黨は盜と云ふ乙黨は君子と云ふ同一事に對し甲黨は民を殃するものとし乙黨は國を福するものとす是れは甲黨を脱し乙黨に入れば罵言は變じて諂辭となり朝に黨に入り夕に黨を脱し同志者は變じて仇敵となる此れ流涕痛哭すべきもの二なり、今回の謀反諸士は其

日本郵船株式會社

京東本社 本 船郵本日 社會株式

船名	往來	出帆
上海出帆	歐洲行	二週一回
米國行	歐洲行	二週一回
香港行	歐洲行	一週一回
日本行	歐洲行	一週一回以上
其他日本各港	歐洲行	一週一回以上
朝鮮支那等諸航路	歐洲行	一週一回以上

支店 大阪、神戸、京都、東京、一宮、京城、上海、漢口、馬尼刺、

に龍城の模様事實如何に候哉、
當地地方官民の今頃の事變に對する頗る
冷靜にして、兎角に消極的政策に陥りたる
國民の常なるや知れず候得共、殆ん
ど對岸の火事視して、人の噂も稀に候、
殊に豫て支那革命の風潮が此の地方人心
を刺戟するを忌みつゝある當地地方官民
のこゝとて孫黃一派に對しては頗る同情な
く、常に新聞紙上に嘲笑の聲を聞か
知らず、此等所謂新派と稱する孫黃等
の一味は遂に南北の同情なく國内に遁去
べき運命のものに候哉然れ他日再舉遂に
支那と云ふ印度支那をも風化するに至る
ことなるべきものなり候、(八月十四日)
に斷言すること能はす(八月十四日)

禹域鴻爪

●江西南昌府にて 桂田生
前略七月廿一日江西省贛州府城に到着
上陸するや城内外各處に武裝せる軍人を見
見受け申候午後二時更に小蒸汽二隻に
曳かれたる民船に軍隊を満載して入港し
来るを見受け申候然れ彼等の湖口敗兵
なるを承知仕候人数は三千位に候、市中
は凡て兵隊を以て満たされ壯觀に候、所
が我等の一行は彼等の爲めに北軍の探偵
と見誤られ司令部に拘禁の厄に遭ひ候、
結局我等の身分判明反つて此度は司令
官が我等の宿舎に謝罪に来る云ふ喜劇
を演じ申候
一行は此地より直ちに九江に向ふ筈な
りしは動亂の爲め九江に到る船なく已を
行す南昌に向ふ事相成り民船を備ひ八
月三日出帆致し候處折返し逆風に對し
陽湖中に三晝夜も漂ひ申し漸く六日正午
當南昌に到着する事を得候、此より直ち
に九江行の事を圖りしは絶対に不可能と
この事に進退兩難、如かず湖南長沙に出
てんには一は僅かに決心致し所に
漢口總領事の照料により江西在住者救助
の小蒸汽参り此にて九江に出づる事に相
成り候、生等の喜悅は御垂察を乞ふ

風前の危きに在る南昌より

一宮生
八月六日正午南昌に着す、靜かなる都
陽湖より急に省城に入り目が廻りそふな

り、南昌は流石に大なり兵船二十艘列を
組み空々として吳城に下れし旗艦には赤
旗を翻す、長沙福建隊とす此の隊も一
人の病者、有らず、市中は戎馬略隊人心
驚惶今にも北軍来るかの様子市中の大富
豪連は己に何處かに避難し市民の過半は
跡方なし都督府を訪ふ顧問の謝剛德に會
ひ、日本士官學校の出身によりて種々
の日本語に堪能、此の人の話によりて種々
の新聞事を知るを得たり、書院が兵火に
罹りし事、旅行隊に死人の有りし事、近
き内建昌にて大激戦ある事、南昌は豫定
の退却を以て今にも南昌を開け渡す事、
他省より援軍の到着しつゝある事、此等
は凡て此の謝君より聞き得し所なり、急
に聞より明に出でたるの感あり、愈進退
谷まりしは僕等の一行、南昌に行はば何
ぞか方法あらんと期待せしに在るの邦人
は大部分已に引き揚げ九江との交通杜絶
音信不通、それと豫定の建昌より修水
を上るは不能都督も保護の責に堪へずと
云ふ、此の上は萍鄉より湖南に出づる
の外なし、遂に九江行を思ひ金策をつ
くゝ種々苦心せり、所が七日に漢口の
領事館から小蒸汽江安九救済に来る、除
りの事に夢にあらずと思ふ程愉快なり
は此の甲板でふらふ暮らす、八日に吳
城陽都督出奔、九日十日には建昌の兵
も逃げ十一日までは城内一人の南軍無
く商家は只北軍の来るを待ちつゝあり十
一日南昌を發す(八月十一日南昌にて)

●漢口より 一宮生
九死に南昌を去り十三日九江に着十五
日當地に安着致し候、饒州以來の通信は
或は不達のこと色々存候何分戰地の律
例せし事色々面白き事有之候、何れ
その内御報告致すべく候、此より直に長
沙に向ひ洞庭の沿岸をめぐるに沙市に出
る積りに候、或は江西の二の舞を演ぜざ
るやと危り居り候先は右まで
(八月十六日)

陝西省西安にて

吉村生
驪山宮より前便御落手の御事と存候
驪山にて雨の爲め思はず滞在去る三三西
安に安着致候、流石は長安の古都たる面
影も思はず月城壁に落つる頃の感慨は

又た格別に候、時節柄この地の各界は注
意をなく遠信は一切閉封致す由に候明
日は都督に面會致す可く候、都督張氏は
日本士官學校の出身にて日本語も上手
の由に候
十二日は愈西方咸陽に向ひ阿房宮跡に
始皇の雄圖を弔ひ申す可く候
此地のビール一本一圓二十錢さは驚く
の外無之外來物價は總てこの率に候、邦
人の在住者は理髮師二人、寫眞師一人、
齒科醫二人此の外支那人の妻と申し邦
人四五名ある由に候(八月九日)

總統令一束

任中國銀行副總裁
任上海鎮守使署參謀長
任貴州陸軍任第一師參謀長
(以上八月二十二日)
●南昌克復功、南昌克復の功により
段芝貴に一等嘉禾章、李純に勳二位を
馬繼に勳三等を、敬堯に勳四位を授け其
他出力員弁に對しては段芝貴に命じ查明
請獎せしめ傷亡官兵に至りては優に從つ
て給與し被難商民に對しては段芝貴をし
て慰安賑卹せしめ同時に李烈鈞、歐陽武
の嚴令を命ず
任江蘇鎮守使
任江蘇水警衛の兼任を命ず
授陸軍中將
●南京保城陣亡者の優卹 江北鎮撫
使張勳の請により天保城戰事に陣亡せる
軍官に優卹の典へ參戰將校を昇進せしむ
特に勳二位を授け殊に彰す
任廣東財政司長
任兩廣鹽運使
(以上八月廿三日)
任命吳松江陰一帶要案司令官
任命秦州鎮總兵
任廣東教育司長
任黑龍江都督府參謀長
(以上八月廿四日)
給二等文虎章
●內蒙古克復の論功 多倫鎮守使王懷

の電稱により正白正藍地方完全に克復せ
るを以て王懷慶に二等文虎章を給予し出
力兵士に一萬元を賞與し李際春に陸軍中
の將を授け其他各軍官を昇進せしむ
任滇黔按察使
任關海關監督
任伊克昭盟盟長
任伊克昭副盟長
任伊克昭副盟長
依願免廣東護軍使
(以上八月廿六日)
任江西民政長代理
任江北護軍使
任陸軍中將
授陸軍少將

任安徽高審判廳長代理
任安徽高等檢察廳長代理
任蘇州鎮守使
任廣東都督府參謀長
任陸軍中將
(以上八月廿七日)
●耿々たる鈕永建 五度江南
機器局を襲ふて克たす鄭黨二千を卒ら吳
淞の孤島に入り敗殘の餘を以て雄厚なる
防可からざるに及び守を撤して嘉定に
去り再舉を圖らんとせしも大勢動かし難
くを以て部兵を解き身は海外に亡命せる
前の松江軍司令鈕永建は頃者書に上海の
各新聞社に送りて自己の心事を明らかに
し諷刺攻撃を逞ふする政府黨に一矢を酬
ひたり
軍興以來余は父老昆季と相見ざる者月
有餘日なり、兵事萬變成敗は逆路する
所に非ず、耿々たる此の心は惟た國利
民福を期し宅宅私利を其間に惟たす我
が父老昆季の諒とす所なるべし、頃
者報紙の記載道路の傳聞する所は全く
諸事實を核せずして信口誣誤し以て我
軍の名譽を破壊して快と爲す余の言ふ
に己む能はざる所なり、我軍出發の時
に當り華亭(松江)知事謝葆鈞は實に軍

廉價販賣
●美容化粧品各種
●諸大家賣藥各種
●玻璃藥瓶各種
●工業用藥品
●理化學用藥品
●醫療用綑帶材料
●醫療用器械
●醫療用藥品
●品質精撰

諸大醫御處方調劑處
濟生堂大藥房
上海西華路德路口
電話二五六一

●移轉せる同文書院

東亞同文書院の假校舎は愈ハスケル路三十三號Aに置くこととなり八月廿八日より事務所を開設し教室其他の準備に着手せり同建築は元イムビリアム煙草會社の工場たり練瓦三階建にして住宅區の西端に位置し清潔宏壯なる上附近には運動場として適當なる芝生あり假校舎の位置としては頗る其處を得たり因に十月末頃諸般の準備整ひ次第學生全部を收容すべしとす

●電報料改訂

當地の大北電報局は九月一日より上海より歐洲各地への電報料在來一語五フラン、五十サンチム即ち二弗二十五仙なりしを四フラン、四十サンチム即ち一弗八十仙に改め、上海日本間の電報料在來一語一フラン、二十サンチム即ち二十五仙なりしを八十又た、大東電信局も當地より歐洲への電報料を大北同様の料金に改訂し兩局とも去る八月十九日此の旨廣告したり

●日刊「新支那」發行

北京に在りて週刊「新支那」を發行し支那に關する燃犀の觀察と各種の調査資料を始め有用の報知を爲し中外人士の支那研究に貢獻する事多かりし新支那社は今回時代の趨勢に鑑み九月一日より北京に在りて日刊新聞「新支那」を發行し週刊「新支那」と相俟ち内は我が支那を研究する者の爲めには日支兩國親善の模範たり且つ亞細亞文明の繁榮たるんとする由發行の上は定めて大發展を爲すべきを疑はず我等は我が同業の發展を喜び時宜に適したる好計畫として賛すると共に其の完全なる發達を希望するものなり

●雜誌「濁流」の發刊

月刊雜誌「濁流」は今同其社より發刊せられたる體裁の瀟灑として整備せる内容の豊富にして各方面の記事を網羅せる上海誌界の雄とすに憚らず我等は濁流社諸氏の

努力を多し其の健全なる發達を祈るものなり

●最近實測の上海地圖發行 文路日本堂にては今同最近の實測に係る上海地圖を發行したり、該地圖の特色は印刷の鮮明なるに殊に日本人關係の官衙會社個人商店等を親切に記入せるに在り而して公共租界、佛租界及南市、城內等に亘り重なる街衢の名稱は洋漢兩文字を附し、内外各官衙、銀行、會社、公園、埠頭、電車等の記入は例により詳細なり、只遺憾なるは紙幅狭くして租界の全部を収むる事能はざりし事なり、再版の節は改良したきものなり

●公私人消息

●カーチル、ブルース氏 上海居留警察部長として在任六年令名ありし同氏は今回北京政府の顧問官となり九月十五日退職の事となり
●サ、フランス、ヘンリー、メー氏 香港太守たる同氏は廿五日離九にて上海發西比利經由歸朝の途に就けり
●ニコルン少將 兼て長江上流巡視中なりし米國東洋艦隊司令官ニコルン少將は去る二十三日旗艦サラトガに座乗して回滬したり
●文學博士狩野直喜氏 京都帝大教授にして先きに歐洲視察中なりし同博士は歸國の途目下北京に滞在在中なり
●ダブル、ユ、ヒ、ト、クリスチアン氏 英米煙草公司北京支店長なる同氏は目下當地滞在中なり近々哈爾濱同支店長として赴任すべし
●官崎氏藏氏 久しく北京に滞在し其後歸國中なりし同氏は去る二十五日來滬目下勝田館に滞留中
●角田浩劍氏 大連遼東新報記者なる同氏は長江上流視察の爲め去る二十五日出帆の大利九にて上江
●馬素氏 兼て南方に出張中なりし當地チヤナ、レバプーリカン主筆なる同氏は先般回滬したり
●フット氏 當地英國總領事館員なる同氏は今同山東濟南駐在を命ぜられたり

●上海港船舶出入統計

八月二十二日より同月二十八日に至る一週間中上海港に出入せし内外汽船の總計は百九十隻、三十四萬二千三百五十五噸にして内入港船舶は九十六隻、十六萬九千〇五十一噸、出港船舶は九十四隻、十七萬三千二百五十五噸に上る、其の詳細は左の如し

入港		出港	
英國	四二	英國	四二
日本	一九	日本	一九
支那	二一	支那	二一
獨逸	七	獨逸	七
露國	三	露國	三
佛國	二	佛國	二
米國	一	米國	一
丁抹	一	丁抹	一
和蘭	一	和蘭	一
那威	一	那威	一
埃國	一	埃國	一
合計	九六	合計	九六
英國	四二	英國	四二
日本	一九	日本	一九
支那	二一	支那	二一
獨逸	七	獨逸	七
露國	三	露國	三
佛國	二	佛國	二
米國	一	米國	一
丁抹	一	丁抹	一
和蘭	一	和蘭	一
那威	一	那威	一
埃國	一	埃國	一
合計	九六	合計	九六

●郵船滙山在庫品

品名	數量	前號比較
印度綿絲	六二二四	△三二一
綿絲大俵	一九九五七	△八一六
綿絲小俵	四八二三	△一五一
金巾(單包)	一、五一八	△二、二六六
燐寸	二、一九三	△二九三
燐寸軸木	四二、六三三	△三三〇
白糖	四、六九一	△一、二六六
麥粉	一五、六九三	△二、四八六
昆布	五、九一一	△一、二二四
切昆布	一五一	△七〇
鹽魚	三、四四五	△六八、七五三
フランネル	五八六	△四、二八一
茶	一〇、〇一五	△四、二八一
雜貨(箱)	七、八〇〇	△四、二八一
雜貨(包)	六、九八八	△四、二八一
九江紙	五、六三三	△四、二八一
紙	五、一四	△四、二八一
洋紙	五、〇五九	△四、二八一
舊鐵	二	△四、二八一
鉛	三、七二七	△四、二八一
銅版	一、七三九	△四、二八一
片版	一、〇〇〇	△四、二八一
桶板	一、〇〇〇	△四、二八一
木板	一、〇〇〇	△四、二八一
蘇	一、〇〇〇	△四、二八一
麻袋	一、〇〇〇	△四、二八一
木炭	一、〇〇〇	△四、二八一

●上海港船舶出入統計

八月廿二日より同廿八日に至る一週間中に於ける、上海港と、日本々々、朝鮮、台

上海五馬路
電話二五七六

池田洋行

京都鈴木製
度量衡 各種

三頭洋行

ペンキ塗一切
代理店

上海虹口乍浦
路あづま前

お國自慢

支那名産
應御注文に

名物屋

製造元
帝國礦泉株式會社
輸入元
永井分行
電話 一五八四

三ツ矢
平野水
サイダー
ジンジャー
オレンジ

販賣店
虹口吳松路
宮本商店
虹口市場前
松本商店
(電話三五九七)
(電話二〇五五)

廣告料
紙本揭載廣告の料金は行数の多少掲載期間の長短に依り特に御相談可致候間御用の方は端書又は電話にて御一報被下候條文路二七(日本堂)轉交
週報上海
發行所
春申社
(電話三〇八三)

編輯兼發行人
上海捲子路二七
電話二七三七 佐原篤介
印刷人
上海浦路三六六
電話一八三三六 廣澤多美次
發行所
上海文路三七號春申社
電話三〇八三

本紙定價(前金)
一部 銀十仙 金十錢
一ヶ月部四 銀四十仙 支那 同四十錢
中二部二十 銀貳圓貳十仙 同二圓二十錢
一年部五十 銀四圓 同四圓
(共稅郵) 本日本日
振替口座 福岡四七〇五番
支那上海 佐原篤介
春申社
大正二年九月一日

線通交捷最絡聯亞歐

◎急行列車ハ最新式ノ寢臺車

一等車及食堂車ヲ聯結致居候

○大連長春間急行列車

大連發 月、水曜日午後三時二十分 莫斯科行
土曜日 午後三時二十分 聖彼得堡行

長春着、火、木、日曜日午後六時五十分

○滿鮮直通(釜山長春間)急行列車

釜山發 日、火、金曜日午後九時五十分
安東發 月、水、土曜日午後四時四十分
長春着 火、木、日曜日午後六時五十分

○長春大連間急行列車

長春發 月、水、金曜日午前七時
大連着 同 午後十時二十分

上リ

○滿鮮直通(長春釜山間)急行列車

長春發 月、水、金曜日午前七時
奉天發 同 午後二時四十分
釜山着 火、木、土曜日午後七時五十分

路汽船ニ接續致候

◎大連發、水、土曜日及大連着、水、金曜日急行列車ハ上海航

歐大	亞連	間連	行ヨ	程リ
哈爾濱	莫斯利	聖彼得堡	倫敦	
二十四時間	十日間	十日間	十一日間	十二日間半

館旅道鐵

ルテホトマヤ

大連、旅順、奉天、長春ニアリ
設備完全 食物精選
大連市外星ヶ浦ニハ海岸ほてるアリ

(YAMATO)號略報電

路航海上連大

使用船

神戶丸 九三七八七六噸

兩船其船内無線電信局アリ

大連發木、土曜日正午 上海着土、月曜日午前

上海發月、水曜日午前 大連着水、金曜日午前

上海大連共ニ棧橋繋留

速力 神戶丸九十九海里航海時間三十一時間
神戶丸九十四海里航海時間四十一時間

(MANSEN)號略報電

炭順撫

大連、營口、天津、芝罘、

上海、香港、新嘉坡、彼南其他東洋諸港ニ於テ常

ニ潤澤ナル貯炭ノ準備アリ

社會式株道鐵洲滿南

町樂有區町麴市京東 社支○ 町園公東市連大 社本○
(MANTETSU)號略報電(番九一二連大)金貯替振